

令和6年度

鳴門市明神小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 児童主体の学びへの転換
- ② 協働的な学び(学び合い)の工夫・充実
- ③ 「書く力」等、表現力の育成
- ④ 「やり抜く力」の育成

【小中連携または中高連携における共通の取組】

瀬戸中学校区幼小中一貫指導プラン「学びのプラン」(学習面)に基づき、確かな学力を積み重ね、自己実現を図ることができる力を育む。

【各校の取組状況の把握について】

校内研修での授業研究や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算など基礎・基本的な学習には意欲的に取り組める児童が多い。 ●語彙数が少なく、問題を読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり生活に生かしたりできる力の育成が課題である。 ●宿題には真面目に取り組むが、その時間は長くはない。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読むことができる。学習した語句や漢字を文章の中で正しく使うことができる。また、より適切な言葉を用いて話したり文章を書いたりすることができる。 ・宿題等、家庭学習に取り組む時間をのばす。	・国語の学習で、小テストや音読・群読、読書タイムを実施し、基礎的内容の定着を図る。 ・効果的なノートの取り方、短文の作り方、工夫した日記の書き方等を教師が共有し、学年ごとに高めていくことで、使える言葉や漢字を増やしていく。 ・AIDリルを活用し、個人の課題を解決する時間を確保する。 ・主体的に学べる家庭学習のあり方を教師が示す。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分なりの考えをもち、意欲的に発表したり文章に書いたりできる児童が増えてきている。 ●教師や友達の話を中心して静かに聞くことができない児童がいる。 ●目的や意図に応じて、必要な情報を選び、自分の考えをまとめたり、書いたりすることに課題がある。	・相手の話や、文章から、自分の考えをもち、理由や根拠を明確にして伝えることができる。 ・相手の考えと自分の考えを比較しながら聞き、よりよい考えをまとめることができる。 ・自分の思いや考えを書くことができる。	・自分の考えを根拠や理由を明らかにして伝える機会を学習活動に意図的に設定する。 ・書く活動を意図的に設定し、書く機会を増やす。 ・タブレット端末や実物投影機を始めとするICT機器を効果的に活用した授業を展開し、個別学習、グループ学習、一斉学習で個の学びが深まる授業展開の工夫を行う。 ・伝え合う力をつけていくために、PBSの手法を用いる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、与えられた課題に対し、真面目に一生懸命取り組む。 ●自分から進んで課題を見つけて取り組むことは苦手である。少し難易度が上がると、諦めて最後まで取り組むことができなかつたり集中が続かなかつたりする傾向がある。 ●支援を要する児童が多く、学習への意欲が低い児童もいる。	・自分のめあてをもって学習に取り組む、自分の学びを振り返ることができる。 ・自分の課題を解決するために、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ・自分の課題に対して、諦めずに最後までやり遂げることができる。	・ICTを活用し、興味関心を持たせ、課題解決へ取り組む意欲を高める。 ・授業中に意見を交流する場面を多く取り入れる。 ・子ども主体で動ける活動を意図的に取り入れる。 ・授業のユニバーサルデザインや個に応じた支援を充実させる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

